

編集後記

現在学校法人として敬心学園は大きな変化の時を迎えていました。学園の具体的な行動基準や指針を示すクレドも新たに作成され、教職員も改めて自身の仕事の意味や、業務の内容を考える時間が多くなっています。そのような中で、先日敬心ジャーナルの編集委員会が行われました。改めて本誌を発刊することの意義やだれを読者として想定して本誌を発行しているのかなど、本質的な議論をすることができました。今後もこのジャーナルが、医療・保健・福祉・保育の現場の社会課題の解決に少しでも寄与できるよう、アップデートを目指していきます。

(編集副委員長 阿久津 摂)

今号では、多くの皆様にご投稿を賜り、誠にありがとうございました。多様な領域から職業教育の現状や取り組みを知ることができ、読者の皆様には、新たな情報に触れつつ、今後の考察を深める手がかりを得ていただける内容であると考えます。各種取り組みや実践に関する情報共有の機会として、本誌が役割を果たすことができれば幸いに存じます。

また、今号では、第22回職業教育研究集会報告が掲載されております。研究集会では多くの口演発表をいただき、第6分科会まで実施することができました。ご参加・ご協力いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

本学園の教職員・客員研究員の皆様には、本誌へのご投稿とあわせて職業教育研究集会でのご発表もぜひご検討いただければ幸いです。研究成果共有の場として今後とも皆様にご活用いただけますよう、ご参加をお待ちしております。

(事務局 清水 絵理)

編集委員会からのお願い

「敬心・研究ジャーナル」第9巻1号に掲載の症例・事例研究報告に掲載された記事が、現在は読めない状況になっています。著者から、研究対象者との研究発表に関する合意形成過程において齟齬が生じたために、記事の削除の申し入れがあったためです。著者の意向が伝えられる前には、研究対象となった当事者を名乗る方や関係者の方から編集委員会や、著者の属する機関へたびたびの申し入れもありました。

この事態に対応するために、編集委員会事務局及び委員長としては緊急対応をとらせていただきました。その経緯は、臨時編集委員会や敬心学園経営執行会議に報告しております。

「敬心・研究ジャーナル」への投稿を考えておられる方々、またそれを進めておられる研究指導者の方々に、編集委員会から、あらためてお願いしたいことがあります。特に、症例・判例・事例報告などの投稿を考えている方、及び投稿を勧めている方には、ご留意いただきたいと思います。

本来、症例・判例・事例研究など、いわゆるケーススタディといわれる研究手法では、扱うケースが一つないし少数であるために、研究対象となった人及びその関係者などが特定される個人情報保護上のリスクが高くなります。ケースが一定数以上あって統計的処理に耐えうるデータベースに基づく数量的研究手法については、そのリスクを避けるための対策がある程度標準化されています。しかし、ケーススタディのような質的研究にあっては、個人情報に関する秘匿化の工夫はありますが、それだけでは完全に個人情報を保護することはできません。

しかし、研究者が従事する「学術」とは、公共の安全と福祉のために、人文・社会科学及び自然科学並びにそれらの応用を進める研究であり、あらゆる学問分野における研究活動及びその所産としての知識・方法の体系ですから、公表することが使命となっています。具体的活動としての「学術研究」は、新しい法則や原理の発見、分析や方法論の確立、新しい知識やその応用法の体系化、先端的な学問領域の開拓などをいいます。公表を原則とするために、学術研究活動は、個人情報保護法の下でも特例的な扱いを受けています。

学術研究を行う機関等に与えられた特例というのは、個人情報の目的外利用の制限（法第18条）、要配慮個人情報の取得（法第20条第2項）及び第三者提供の制限（法第27条）に関して、学術研究目的で取り扱う必要がある場合について、本人又は第三者の権利利益を不当に侵害するおそれがない場合に限って、事前の本人同意を要しないというものです。

学術研究機関は、このように特例は認められてはいるものの、安全管理措置、苦情処理等、個人情報等の適正な取扱いを確保するために必要な措置を自ら講じ、かつ、当該措置の内容を公表するよう努めなければならないとされています。利用目的の特定（法第17条）、不適正な利用の禁止（法第19条）、適正な取得（法第20条第1項）、利用目的の通知（法第21条）及びデータ内容の正確性の確保（法第22条）については、他の個人情報取扱事業者と同様の規律が課せられています。

そのために、ケーススタディでは、研究者と研究対象者の間での説明と納得過程は重要になります。

いわば研究対象者も一定の情報自己開示に対する積極的な研究協力者としての責任を覚悟していただく必要があります。そのために、研究倫理の合意形成に際しては、必ずその過程を記録しておいていただく必要があります。文書だけでなく、口頭や電話やメールなどの記録も含みます。

また、限られた会員だけが読める雑誌への投稿は別として、研究に関する記事を一般の雑誌に投稿するということは、それが紙媒体の雑誌であれ、電子媒体の雑誌であれ、不特定多数の読者に情報を提供することを意味します。現在、「敬心・研究ジャーナル」は、J-STAGE に登録され、電子ジャーナルとして、だれもがアクセスできる雑誌になっています。研究者にとって、これは当然のことと理解できると思いますが、研究対象になった人々にとっては、この点の理解が進んでいるとは限りません。投稿に際しては、研究者は事前に、研究対象者に対して、できるだけ丁寧に「敬心・研究ジャーナル」の電子媒体としての特徴を、説明していただき、納得していただくようにお願いしたいと思います。

電子ジャーナルとして J-STAGE を通して発刊している「敬心・研究ジャーナル」にいったん掲載されると、その記事を修正・削除・撤回・非公開にすることは、研究者と研究対象者ともに傷つく結果となります。こうした事態を防ぐためには、皆様のご理解とご協力が必要になります。この間の事情をどうかお判りいただきたいと存じます。

敬心・研究ジャーナル編集委員会
委員長 小川 全夫

— 「敬心・研究ジャーナル」査読委員一覧 (50音順: 敬称略) (2025. 12. 1現在) —

阿久津 摂	安部 高太朗	天野 陽介	伊藤 正裕	稻垣 元	井上 修一
井上 俊也	今泉 良一	上野 昂志	牛島 詳力	王 瑞霞	大川井 宏明
大谷 修	岡崎 直人	小川 全夫	奥 壽郎	奥田 久幸	小澤 由理
小関 康平	小野寺哲夫	川廷 宗之	菊地 克彦	木下 美聰	黒木 豊域
小泉 浩一	坂野 憲司	坂本 俊夫	佐々木 綾子	佐々木 清子	柴山 雄大
白川 耕一	白澤 政和	杉野 聖子	鈴木 八重子	武井 圭一	東郷 結香
中井 真悟	永嶋 昌樹	橋本 正樹	浜田 智哉	町田 志樹	松永 繁
水引 貴子	南野 奈津子	宮嶋 淳	八城 薫	安岡 高志	行成 裕一郎
吉田 志保	吉田 直哉	渡邊 真理			

— 「敬心・研究ジャーナル」学校法人敬心学園 編集委員会 (2025. 12. 1現在) —

委員長 小川 全夫	(職業教育研究開発センター、九州大学名誉教授、山口大学名誉教授)
副委員長 阿久津 摂	(日本児童教育専門学校)
学術顧問 川廷 宗之	(大妻女子大学名誉教授)
委員 小泉 浩一、浜田 智哉	(日本福祉教育専門学校)
高林 礼子、山下 高介	(日本リハビリテーション専門学校)
稻垣 元、王 瑞霞、住吉 泰之	(日本医專)
石原 成	(日本児童教育専門学校)
坂本 俊夫	(東京保健医療専門職大学)
水引 貴子、木下 美聰	(客員研究員)
事務局 杉山 真理、清水 絵理、内田 和宏、沢田 秀樹	(職業教育研究開発センター)

〈執筆者連絡先一覧〉

地方圏における専門学校教育の意義とは何か

—職業-地域的・社会化的観点から—

福岡大学人文学部 植上 一希

〒814-0180 福岡県福岡市城南区七隈8-19-1

E-mail: uegami@cis.fukuoka-u.ac.jp

専門学校の設置主体の経営行動と専門学校の多様性の関係

について

学校法人片柳学園/放送大学大学院 水田 真理

E-mail: mizutax@gmail.com

外国人介護留学生の社会関係資本形成初期段階に関する予備的研究

共栄大学 国際経営学部 太原 靖一郎

埼玉県春日部市内牧4158 共栄大学 国際経営学部

Tel: 048-755-2932

E-mail: s-tahara@kyoei.ac.jp

留学生の介護福祉士国家試験合格率向上に向けて

—パターン化させた暗記対策が及ぼす効果—

日本福祉教育専門学校介護福祉学科 細野 真代

E-mail: hosono-m@nippku.ac.jp

促通を主とした即時効果が実感できる運動プログラムの効果(その2)

—大学学園祭企画にて実施した肩こり予防・改善プログラムの実践報告—

早稲田大学 非常勤講師 包國 友幸

ふさわしくない者のための保育者養成

—逸脱・周縁・変容の教育空間へ—

高田短期大学 古谷 淳

E-mail: furuya@takada-jc.ac.jp

高等教育における「シラバス」はなぜ『重要』なのか

大妻女子大学名誉教授、職業教育研究開発推進機構・代表

理事 川延 宗之

E-mail: kawatei@rdipa-vet.org

中田基昭の現象学的保育学における身体的関係論

大阪公立大学 吉田 直哉

〒599-8531 堺市中区学園町1-1

E-mail: yoshidanaoya@omu.ac.jp

質的研究の自己解体

—オートエスノグラフィーが破壊する知の制度—

高田短期大学 古谷 淳

E-mail: furuya@takada-jc.ac.jp

翻訳：英国教育水準局（Ofsted）「各種保育施設に対する査察の手引」

大阪公立大学 吉田 直哉

〒599-8531 堺市中区学園町1-1

E-mail: yoshidanaoya@omu.ac.jp

幼稚園教育実習の時期の研究

—実習園のアンケートを通して—

日本児童教育専門学校 水引 貴子

職業教育の重要性と専門職人材の人事管理

トライグループ 笹本 良行

E-mail: sasamotoyoshiyuki@gmail.com